

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26301013

研究課題名(和文)現代の代表制デモクラシー改革とプライマリーの意義に関する総合的比較研究

研究課題名(英文)Comparative Study of Primary Elections in Contemporary Representative Democracies

研究代表者

伊藤 武 (ITO, Takeshi)

専修大学・法学部・教授

研究者番号：70302784

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代の民主主義国における選挙政治で広がりつつあるプライマリー(予備選挙)について、基本的なデータを収集することを目的とする海外調査研究である。アメリカ、ヨーロッパ(英・伊・クロアチアなど)、アジア(韓国・インドネシア)を対象地域として、通常選挙と比較してデータが少ないプライマリーについて、選挙制度、投票データの収集を行い、後続する共同研究の基盤とした。収集されたデータは一部先行して公開している。

研究成果の概要(英文)：This research project aims to do a comprehensive survey of primary elections in contemporary democracies and to collect data for future joint research. The project covers recent developments of primary elections in Europe, the United States, and Asia. The collected data is expected to contribute to more detailed and theoretical comparative analysis and is to be open to other researchers.

研究分野：比較政治、ヨーロッパ政治

キーワード：プライマリー 予備選挙 選挙制度 政党政治 民主主義

1. 研究開始当初の背景

現代の代表制デモクラシーは、選挙を通じた政治エリートの選出が、伝統的経路であった政党組織や選挙の衰退や空洞化を受けて、深刻な機能不全に陥っていると指摘されてきた。このような「民主主義の赤字」への対応策として、近年先進国・途上国を横断して急速に拡がりつつあるのが、候補者選定におけるプライマリー導入である。

しかし、現代でも、プライマリーへの注目度は、あくまで各国政治や個別政党など現実政治のレベルに止まり、当事国でさえ制度的特徴や選出過程は十分理解されておらず、ましてや政治学研究としてその重要性に相応しい検討は進んでいない。従来の政治学研究において、代表制の政治エリート選定をめぐる視角は、圧倒的に選挙研究に集中していた。ただし、既存研究の重点は政党組織主導の選出過程に置かれ、プライマリーは一例と扱われるに止まっている。

2. 研究の目的

本共同研究は、上記のような既存のプライマリー研究の限界を克服するために、選挙研究一般に比肩しうるようなデータの蓄積が必要であると考えます。

そこで、本研究は、選挙制度・選挙運動、候補者の属性・有権者の選好などを体系的に調査・収集し、質的分析・量的分析双方にとって比較可能なデータベースを構築する基礎的データと知見を得ることを目的とする。

このような海外調査を通じて、通常選挙に限定されがちな視点の限界を克服し、代表の選出過程をより長い時間的資格から考察することを可能になる。従来の選挙データ中心の観察主義的研究では十分得られない分析を行う基礎を構築することが政治学研究への貢献として期待できる。

3. 研究の方法

プライマリーに関するデータが、基本的に政党単位かつ現地語で保存されているため、直接現地に赴いて政党事務所などを訪問・調査しなければならないこと、過去のデータについては現地の政党アーカイブや地方紙報道資料なども調査対象として重要であること、選挙に比べ情報が少ないために現地の政治社会状況を熟知した専門家・ジャーナリストなどへの直接的なインタビューが有益であることから、現地調査の必要性は特に高い対象である。

そこで、本研究では、英米、欧州、アジアの地域別、質的・量的分析の手法別に樹霜的な研究グループを設定し、調査とデータの整理を行う。

プライマリーとしての調査対象は、サン

ル数の少ない執政長官などから始め、議員候補などサンプル数の多い領域にも対象を広げていく。ただし、研究実施期間中も随時行われるプライマリー、および比較対象となる通常選挙のデータ収集についても、柔軟に行っていく。

得られたデータは最終的に公開することを目指す他、中間的な分析は学会や論文などの形で積極的に公開していく。そのため、適宜共同研究の進捗確認や成果公開のための打ち合わせ、研究会を開催していく。

4. 研究成果

まず、海外研究調査を主たる対象とする本研究では、プライマリーをめぐる政治状況、基本的な選挙制度、候補者と選出候補者の特性などに関する基礎的データを、現地調査に基づき収集した。また、一部データベース化されている部分は、既存のデータベースやメディアを利用して入手した。これらのデータは、論文などの中間成果、あるいは一部下記のサイトで先行公開されている。最終的には、2018年度中に、最大限他の研究者も利用できるような形態で公開するように作業を継続して進めている。

さらに、中間的作業として、各自あるいは共同で、本研究のデータを活かした分析を論文や学会発表、図書などの形で随時公開するように図ってきた。特に、計画2年目に当たる2015年度には、日本比較政治学会研究大会において、外部の研究者も含めたプライマリーに関するパネルを企画し、アメリカ、韓国の事例を中心に、プライマリーの現代選挙政治における意義について検討した。特に、イデオロギー的分断の促進や候補者特性への影響など従来から論点になっているテーマについて検討し、実際にはオープンかクローズドかなどの形態、法規制のあり方などによって差異が大きいことを明らかにした。

このパネル以外にも、各自が選挙政治、政党政治、民主主義論などの領域における研究に本研究の知見を適用し、積極的な発信に努めてきている。プライマリーに関する国際共同研究への参加や国際学会での報告、専門論文の公開に加えて、一般向け書籍などにおいても、候補者選出過程の変化が看過しがたい影響をもたらしていること、プライマリーの活用も「民主主義の赤字」問題という現代民主主義の抱える構造的変化の中に位置づけられることを明らかにしてきた。

今後は、2018年度より採択された後継の実証的共同研究において、本海外調査のデータを活用した実証的比較を行い、南米やバルトなど本研究では対象と出来なかった地域にも分析を広げて、研究成果を公開していく。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

浅羽 祐樹、韓国憲法裁判所における大統領弾劾審判の比較研究 盧武鉉と朴槿恵、年報政治学、査読無、2018、頁未定

成廣 孝、2016年EUメンバーシップに関するレフェレンダム、岡山大学法学会雑誌、査読無、66-3/4、2017、931-970

伊藤 武、イタリア憲法改正国民投票、否決の「教訓」、公研、査読無、2017、86-7

浅羽 祐樹、韓国総選挙における候補者選出方法の変化と大統領による政党統制、日本比較政治学会年報、査読有、18、2016、181-207

西川 賢、選挙制度改革の政治学:カリフォルニア州のプライマリー改革の事例研究、年報政治学、査読無、2016、37-55

Ryo Fujishima、Takashi Narihiro、New Party Entries and Dramatic Moves along the Left-Right Spectrum: Party Competition in Bulgaria and Romania during the 2000s、國學院法學、査読無、54-2、2016、43-79

川村 晃一、市民とインターネットと民主的選挙—インドネシア—、アジアワールド・トレンド、査読無、251、2016、8-9

西川 賢、『選挙』なのか『統治』なのか:メディア技術の革新がもたらすアメリカ民主主義の危機?、法学研究、査読無、88-2、2015、96-114

Mizuho Nakada-Amiya、Takashi Narihiro、New Parties' Effects on the Instability of Coalition Governments in East-Central Europe、国際学研究、査読無、47、2015、1-33

〔学会発表〕(計 14 件)

浅羽 祐樹、若者にとっての「保守」と「進歩」—世代で異なるイデオロギー理解は韓国でも存在するのか、現代韓国朝鮮学会第18回研究大会、2017

浅羽 祐樹、韓国憲法裁判所における大統領弾劾審判の比較研究 盧武鉉と朴槿恵、日本政治学会2017年度研究大会、2017

伊藤 武、来たるべき総選挙の展望、日本アカデミア、2017

西川 賢、アメリカ政治の新たな分断?トランプ現象をどのように説明すればよいのか、第20回・比較政治学会研究大会、2017

Keiichi Kubo、State Capture and the

Weakening of Accountability: A Comparative Analysis of Serbia and Macedonia、Association for the study of nationalities、21st Annual World Convention、2016

Takeshi Ito、Defrosting frozen democratic institutions: comparative analysis of constitutional reforms in Japan and Italy、the Workshop on Comparison between Japan and Europe: Transformation of Democracy and Parliamentary Politics、2016

西川 賢、アメリカにおけるイデオロギー的分極化と予備選挙制度、日本比較政治学会2015年大会、2015

浅羽 祐樹、韓国総選挙における1人2票制の導入と候補者選出方法の変化、日本比較政治学会2015年大会、2015

伊藤 武、イタリアにおける憲法改正と憲法体制改革、日本政治学会2015年大会、2015

Keiichi Kubo、The Weakness of Intra-Party Democracy and its Consequences: The Case of Ex-Yugoslav Countries、International Conference "Major International Issues in the 21st Century from a Perspective of Japan and Europe"、2015

西川 賢、『選挙』なのか『統治』なのか:メディア技術の革新がもたらすアメリカ民主主義の危機?、慶応法学会春季大会(招待講演)、2014

伊藤 武、イタリアの移民政策と家族主義レジームの「再家族化」、日本政治学会2014年大会、2014

Takeshi Ito、The politics of expertise and the liberal origin of European integration、Final round-table "New Strategies for Democratic Development and Political Integration in Europe(招待講演)、2014

浅羽 祐樹、「安倍政権の右傾化」が問題なのか—国際的構造変化に対する日韓間の認識ギャップと日韓関係の現在、2014年独島研究所学術大会、2014

〔図書〕(計 15 件)

新川 敏光、伊藤 武、ナカニシヤ出版、国民再統合の政治、2017、310

浅羽 祐樹、木村 幹、安田 峰俊、講談社、だまされないための「韓国」あの国を理解する「困難」と「重み」、2017、210

高橋 進、村上 義和、伊藤 武、明石書店、イタリアの歴史を知るための50章、2017、384

駒村 圭吾、待鳥 聡史、伊藤 武、浅羽 祐樹、弘文堂、「憲法改正」の比較政治学、2016、490

山岸 敬和、西川 賢、大学教育出版、ポスト・オバマのアメリカ、2016、220
 水島 治郎、伊藤 武、岩波書店、保守の比較政治学—欧州・日本の保守政党とポピュリズム—、2016、264
 伊藤 武、中央公論新社、イタリア現代史 第二次世界大戦からベルルスコーニ後まで、2016、320
 川村 晃一、アジア経済研究所、新興民主主義大国インドネシア-ユドヨノ政権の10年とジョコウィ大統領の誕生-、2015、333
 Yohei Narita, Ryo Nakai and Keiichi Kubo、Ashgate、Party Primaries in Comparative Perspective、2015、242
 Keiichi Kubo、Japan: Global Resource Management Program, Doshisha University; Belgrade: Institute of International Politics and Economics、Major International Issues in the 21st Century from a Perspective of Japan and Europe: Proceedings of Round Table Conference、2015、338
 西川 賢、千倉書房、分極化するアメリカとその起源—教頭中道路線の盛衰、2015、338
 久保 慶一、高橋 百合子、有斐閣、『アカウンタビリティの比較政治学』、2015、318
 浅羽 祐樹、韓国化する日本、講談社、日本化する韓国、2015、256
 Takeshi Ito, Masako Sugihara, Silvio Beretta, Alex Berkofsky、Springer、Italy and Japan: How Similar Are They? A Comparative Analysis of Politics, Economics, and International Relations、2014、357
 川村 晃一、アジア経済研究所、ユドヨノ政権の10年と2014年の選挙、2014

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：

取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕
 ホームページ等
<http://www.k-kubo.jp/data.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 武 (ITO, Takeshi)
 専修大学・法学部・教授
 研究者番号：70302784

(2) 研究分担者

浅羽 祐樹 (ASABA, Yuki)
 新潟県立大学、国際地域学部、教授
 研究者番号：70403912

川村 晃一 (KAWAMURA, Koichi)
 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所、地域研究センター東南アジア I 研究グループ・研究グループ長代理
 研究者番号：90450501

久保 慶一 (KUBO, Keiichi)
 早稲田大学・政治経済学術院、教授
 研究者番号：30366976

成廣 孝 (NARIHIRO, Takashi)
 岡山大学・社会文化科学研究科・教授
 研究者番号：90335571

西川 賢 (NISHIKAWA, Masaru)
 津田塾大学・学芸学部、教授
 研究者番号：10567390

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()